

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 10日(水) 19時15～21時00		
市町村名	堀金村	グループ名	1
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

地域の中の道路をどう考えるか

道はただ効率良く点と点を結ぶだけのものでなく、その間にも人々の暮らし、経済、文化があって、それによって域間の結びつきや、文化、産業などが伝わっていった。地域間の交流と言うが糸魚川とは昔の塩の道の頃の方が結びつきは強かった。国や県が考えている道作りはいったいどのようなものか？

今ある高速道路やオリンピック道路、山麓線などを基軸として、在来道路とのアクセスを整備した方がよい。

今朝採れた産物をより早く消費者に届けるなど、20年30年のグローバルな経済効果を見た時にやはり高規格道路は必要と考える。

既存の道路の整備と言うが、地域高規格道路と生活道路とは道の種類、役割が違うことを考えなければならない。

今ある道路の拡幅整備した場合と新たに道路を造った場合の長いスパンで考えた時のコストを比較すべきである。

志賀高原にオリンピック道路ができて湯田中の町が素通りでお客さんが減ってしまったように、経済効果はかえってマイナスとなってしまった。

高規格道路ができて村が栄えるのか？

高規格道路ができた場合、通過してしまう車両はあるが、道の駅のように村の特色を持たせれば堀金村で降りてくれるのではないか。

高規格道路は突然沸いた話ではなく、プロセスを経て計画されてきた事業であるから尊重する必要がある。

広域の交流を考えると道路は必要と思うが、現在の社会、経済状況から考えて今すぐ必要とは言えない。

この地域に本当に必要なのか、安曇野には田園風景があり高速道路がないということを知恵を働かせていることが全国に自慢できる特色となる。

これからの地球環境や国の財政を考えた時、公共事業を自分たちの地域は我慢するというメッセージを、安曇野から発信することが必要。

安曇野の南北を縦断する道路(コンクリートの構造物)は、長期的な視野で見れば負の財産でしかない。例えば100年先の社会を考えると石油は枯渇し今のような車社会が続くとは考えられない。しかも一度作ってしまえば壊すことはできない。

第 2 回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 10日(水) 19時15～21時00		
市町村名	堀金村	グループ名	1
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

高規格道路は既存の道路と立体交差になるわけであるから、盛土が掘り割りになる。景観の破壊、地下水の分断、排気ガスによる大気汚染など考えられる。それで安曇野の自然をどのように守るのか。今の自然をこのまま残してほしい。

主婦の立場から考えて、今は農産物等の食べ物は、生産者が分からないものは何を使っているのかわからないので買いたくない。地元で生産された安全な物を地元で消費するということだ。それなのに生産物を運ぶためにスピード化が必要でしょうか。

医療の問題は、大北地域に総合病院を作る方が効果的。

高規格道路は、人的交流や地域活性化、物流、災害の面で必要。

堀金村を都会人はどう考えるのか、知人に聞くと都会の便利さを求めては来ない。少々不便でも田園風景がよい、棚田オーナー制など希望者が殺到している状況を見ると、都会人はビルの中で暮らしているので土を求めるようになる。

それぞれの人の価値観が違うので、道路に対する考え方も異なる。

道路の問題を突き詰めていくと、堀金村の村作り、どういう特色を持つかにつながる。

棚田を文化の面で大切にしたいが、棚田では生活ができない。

基幹整備をして田畑を平らにしてしまった。特に畑は自然を残しているもので自然を壊しているのか涙が出た。でも、これをしなければ農業を守るができなかった。自分の中で試行錯誤がある。

今のままでは農業は成り立っていない。これは国、県の政策に問題がある。県は道路の問題を一部局が単独に検討するのではなく、農業、環境等総合的に検討する必要がある。

自然保護と言うがリンゴ農家の収穫時期に猿によって大きな被害がある。

基本的には農業が安曇野の自然である。

大町の人が堤防道路ができて信大に早く行くことができ、子供が助かったと言うが、例え40分でいけたから助かったとしても、30分でないとは助からないとすればもっと早く考える。それではきりが無い。

便利ばかりを追求して良いのか、日本中みんなが追求すれば便利の価値は低くなる。

広域での道作りは必要だ。時期、方法については考えるべきだ。

自分の家の前や近くを道路が通ると言われた時、どのように考えるか。

広域での道作りを考えても今ある道路で十分である。

この道路ができたならどうなるのか。隣の地区に行くにも遠回りしなければならない。

豊科は道路ばかりが整備されて道の中に家がある状態になってしまった。

農免道路でも道路の反対側にある自分の田圃に行くのにも命がけの状態だ。

今ある道路は、通過道路、生活道路、通学路など異なった目的が混在している。

今回の自由討論会の陰の本題は長野県の道作りである。高規格の問題が起きて住民が初めて道作りについて意見を言える機会を得ることができた。道作りについてきちんと検討していけば、高規格道路の必要性も浮き彫りになってくる。

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 10日(水) 19時15～21時00		
市町村名	堀金村	グループ名	1
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

今までの道路整備(村道から国道に至るまで)は住民が知らないうちに計画され、ある日突然工が始まっていた。そういう道路行政のあり方を見直して、もっと住民の声を聞いて実行してほしい。高規格道路ができれば冬の除雪など維持管理にお金がかかるが、高規格は国道であるから県が管理する。平行する道路は格下げになって、地元の負担になる。

道路が作られたことによって、最低限として住民や道路を利用する人に自然を大切にする心が目覚めればよい。

高規格道路の問題が発生したことによって、自分の村を考える良い機会になった。道作りだけにとどまらず、村のあり方、地域のあり方をいろいろな立場の方と一緒に、真剣に考える機会となる良い機会となった。

配布資料

- ・ 第一回議事録
- ・ 塩の道ハイウェー資料1
- ・ 将来の交通予測

次回予定

- ・ 10月22日(水) 役場別館 7:00PM～
- ・ 配布資料を各自読んできて内容について県に説明をしてもらい検討する。

今後の予定

- ・ 11月末めどに合同の報告会を行う。

次回請求資料

- ・ 第1回議事録

以上